

ミズナラ、イタヤカエデ、ウダイカンバ、アカマツなども混じる。下生えにはクマイザサ、ヤマツツジなどが多い。これら広葉樹の林は、春には新緑の新鮮さに輝き、夏は涼しい日かげをつくり、秋は紅葉に彩られて、路行く人を楽しませてくれる。野生のカスミザクラが咲くのは5月中旬で、下旬にはヤマツツジが花盛りになる。

やがて林は切れ、頂上のヤマツツジ群に行きあたって、路は二手に分れる。右の路はヤマツツジの中を抜けて直接芝原に達する。左を行くと路はやや下り、樹林の中へ入って行く。この樹林の中の岩かげに御神水がある。葛尾の三匹獅子の一行はここで身を浄め、神域に入ることになる。

ここの樹林はブナが多く、他にクマシデ、イヌシデ、ミズナラなどを混じえる。林床にはチマキザサが成長し、ヤマツツジ、ヤマモミジ、ウラジロノキなども見られる。

御神水をすぎて、急な斜面を登ったところに、大きな花こう岩の露頭がある。この下に大きな空隙があり、そこは夏でもひんやりと冷い。土地の人々はこの空隙を御室と呼び、蚕種の保存に用いたという。岩肌に文化5年9月の刻字がある。文化5年は1808年である。

この岩の下を左にまいて、路は頂上に出る。葛尾の社は、山頂芝原の南端に東南向きに建っている。



〔葛尾口の御神水〕  
同じような泉は田沢口にも茂原口にもある。日山参詣の三匹獅子はここで身を浄める。